

ボラスステ新聞

新年度 初めてのボランティア



5月5日被災地バスツアー

今回の被災地バスツアーは、私にとって昨年に続いての参加となりました。

昨年と同様に閑上地区を訪問し、震災当時のことや今の閑上地区の復興状況などを学びました。私がそこで疑問に思ったことは、過去の石碑に津波があったことが記されていたにもかかわらず、「閑上は津波が来ない土地」として認識されていたことです。これからは過去の教訓が生かされるように、正確な情報を伝えていきたいです。

閑上地区を離れた後は、愛島東部仮設住宅を訪問し、住民の方々と交流をしました。初参加者が上手く住民の方々と交流をとれるのか心配でしたが、個人差はあれども、しっかりと交流できていたようだったので、私も初参加者を引っ張っていきける

ように努力していきたいと改めて思いました。

最後に生涯学習センターで振り返りを行いました。各々がしっかりと自分の活動を振り返り、次の活動に活かせるような、内容の濃い時間になったと思います。
(人間心理学科二年 沼田誠史)



2015年度 第2号
二〇一五年
五月二十九日
発行

今回のバスツアーは私にとって、TASKIに所属して初めての活動でした。語り部さんのお話を聞きながら、閑上の町をまわり、自分の目で見て聞いて、震災の被災の大きさや、悲惨さを肌で感じてきました。語り部さんのお話の中で印象に残った言葉があります。それは、「小さなことが生死を分けた。それは運命だった。」という言葉です。確かに私も震災を経験してそう思いました。しかし、「運命」で終わらせずに、これからも少しでも多くの方に、また、これから生まれてくる子供たちへ震災を語り継いでいくことが大切だと考えました。

その後の仮設の住民さんとの交流は、少し緊張しましたが、笑顔で楽しく交流することができました。今回のバスツアーは、改めて震災について考え直す機会となりました。
(人間心理学科一年 小笠原みなみ・岡山眞子)

苗植え作業

TASKIが作る野菜はいかに

五月十一日、植松入生仮設住宅の畑にて、野菜の苗植えを行いました。植えた野菜はトマト、ピーマン、ナス、枝豆の四種類です。会長さんのご指導のもと、土起こしから始めた畑作りでした。「腰が入ってないよ！」と笑われながらも、「何でも経験だよ。」と励ましをいただきながら、作業を進めていきました。

苗植えの経験はあるものの、根を少し伸ばしてあげることや水を溜めておくために溝を作ることなど、初めて知ったことが多くありました。

学生が植えた野菜はこれからどうなっていくのでしょうか。収穫がとても楽しみです。畑の様子はツイッター等で発信されますので、ぜひご覧ください！



5月の主な活動 5日被災地バスツアー 11日植松入生苗植え作業

16日愛島東部仮設住宅春まつり 25日~29日ネパール大震災募金活動

編集後記

新入生が加わり、ボランティアステーション内がフレッシュに、そしてますます活発になっていると感じる今日この頃。今回が新年度初めてのボランティア活動でしたが、参加人数も多く大変驚いています。これからも積極的に参加してほしいと思います。(表現文化学科3年 渋谷佳代)